

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
2000.5.2 No. 5128

「住田-松田-大塚体制」なる 幻影にすぎない JR東労組

革マルの悲鳴

4月25日、JR東日本は、松田社長が代表権なしの会長に退き、大塚副社長が社長に昇進するという人事を発表した。
一方革マル派は、松田社長交替が明らかになるや、「葛西Ⅱ大塚体制の粉砕をめざして闘おう!」と叫びはじめています。

「葛西の直系の大塚が東日本の新社長になったという事は、東会社の経営トップが葛西Ⅱ大塚体制で固められたということの意味する」「カサイ流が箱根を越えて東側に押し寄せてきた。東労組・JR総連破壊攻撃を本格的に開始する敵側の態勢が確立されたことを意味する」と

というのだ。
彼らは、松田-松崎体制の崩壊ⅡJR東労組の崩壊に怯え、「東労組破壊攻撃が本格的に始まった」と騒ぎだしたのだ。

「松田社長を守れ」運動の破産

この間東労組は、「東日本の社長の座を狙う葛西の入城を許すな、松田社長を守れ」を唯一の目的として、「革マルの組織介入弾劾」とか、「JR総連は革マルではない」等の茶番劇を演じ、「平和共存打破運動」やら、「組織内の組織破壊分子弾劾運動」、そして動労千葉や国労・鉄産労解体運動につき進み

さらには「シニア協定」ですべての労働者に唾する裏切りまでやって会社への忠誠を誓うなど、結託体制を維持するために、まさになり振り構わぬ手段を尽くした。しかしその結末は、松田社長の交替だったのである。
国鉄分割・民営化以来13年間に及ぶ東労組・革マルとJR東日本あまりに異様な結託体制はついに崩壊の瀬戸際にたつた。

「住田-松田-大塚体制」のウソ

ところがJR東労組は、社長交替の発表後、しばらくの沈黙ののち、突然「住田-松田-大塚体制を強化しよう」などと言いはじめたのだ。会社の懐のなかで、会社の力をバックにして生きるしか方法がない東労組・革マルにとって見れば、二枚舌でも三枚舌でも使って、とにかく会社に忠誠を誓うしかないということだろうが、それにしてもこれではあまりにも節操がなさ過ぎる。

「住田-松田-大塚体制」などというが、発表された人事では、住田最高顧問はたんなる相談役、松田現社長は代表権もとられた会長に過ぎない。そもそも経営の常識としてそんな「体制」など存在しようもないものだ。

謀略論はどこへ

しかもマスコミなどでもすでに言われているように、松田社長交替が、自民党-政府-運省の判断でなされたことは周知の

事実である。これは、この間の東労組の主張では、「一部JR経営陣など権力者による『統一司令部』の指示に基づくもの」「闇の力に操られたもの」「国家権力の謀略」だったはずではなかったのか。

それが一体全体どこで、「住田-松田-大塚体制」なるものに豹変したというのか。まさにデタラメにもほどがあると言ってしまう。これまでかれらが並べてきたことのウソ・ペテンが全てあらわになったのだ。

しかし実は、これこそが東労組・革マルという組織の本質なのだ。要するに革マルが生き延びるためには、昨日まで口をきわめて言っていたことを今日一八〇度変えることも、自らの組員を犠牲にし、脅かしつけることも、二枚舌・三枚舌でだますことも平気という精神構造なのである。

犠牲になるのは

そんなことはもはや通用しようもないが、彼らはこれまで以上に会社にすり寄り、奴隷のようになり媚へつらつて、「使い捨てないでくれ」と哀願する道を選ぶのだらう。しかし、それによって二重三重に犠牲にされるの組合員であり、現場の労働者だ。どんな合理化でも、安全を危機におとしおとされる施策でも全て容認し、労務政策上は「労働組合」が会社の憲兵になり、そして結局組合員はただひたすら、動労千葉解体、国労解体、鉄産労解体、新「民主化同盟」解体な

る運動にだけ駆りたてられてられるということになる。
しかし、会社がバックにいることになりたつていた、このような暴挙もはや通用しなくなることも間違いない。今こそJR総連と決別しよう。今こそJR東労組を解体しよう。

大きなチャンス

大塚新社長体制は、明らかにJR総連・革マルとJR東日本の結託体制という、あまりに異様な在り方を権力側から清算する目的をもつものである。
だがわれわれは、この新たな体制は、他方では、一〇四七名の解雇撤回闘争をはじめ、国鉄分割・民営化以降13年間にわたつて不屈に貫かれてきた国鉄労働者の闘いを解体するという狙いをもっていることも、絶対に忘れてはならない。

だがわれわれは、国鉄分割・民営化120万人の国鉄労働者の首切り攻撃に真正面から立ちむかい、その後も徹底した組織破壊攻撃や差別・選別攻撃に抗して団結を守り、労働者らしく、人間らしく、堂々と頭をあげ、胸を張って生きる道を選んできたのだ。これからも仲間と団結を何より大切に、闘いの道を貫くまでだ。
国鉄闘争をめぐる情勢は大きく流動化をはじめた。われわれにとつては厳しくとも大きなチャンスの到来だ。JR総連を解体し、この13年間の卑劣な差別・選別攻撃との闘いの決着をつけよう。